

**教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価に関する報告書**

**対象年度 令和5年度**

**令和6年10月**

**和歌山市教育委員会**



— 目 次 —

I	はじめに	1
1	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について	1
2	点検及び評価の実施方法について	1
3	議会への提出及び公表について	1
	別記① 第2次和歌山市教育振興基本計画	2
II	令和5年度教育委員会の活動状況	5
1	教育長及び教育委員	5
2	教育委員会会議の開催状況	5
3	教育委員会会議議案一覧	6
4	教育委員会会議以外の主な活動状況	9
5	教育委員会の活動状況の評価	9
III	点検及び評価	10
IV	今年度の和歌山市教育委員会事務評価委員会からの意見	75
V	その他	78
1	教育委員会の組織	78
2	関連法令等	79
	① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)抜粋	
	② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例	
	③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱	
	④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱	

## I はじめに

### 1 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施について

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、「教育委員会の責任体制の明確化」を目的として、同法に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが定められました。

### 2 点検及び評価の実施方法について

令和6年度に実施する点検及び評価は、令和5年度事業を対象とし、第2次和歌山市教育振興基本計画の基本理念である「ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育」の実現に向け取り組んでいる5項目の基本方針、11項目の基本目標及び26項目の基本施策を推進するための具体的な取組51項目のうち、市長が管理し、及び執行することとなった「芸術・文化の振興」、「文化財の保護・活用」及び「スポーツの振興」に係る7項目を除いた44項目を整理し、取組の成果と課題等をまとめるものとします。

また、教育に関する有識者による外部評価については、和歌山市教育委員会事務評価委員会において幅広い視点から事業内容を検討し、個々の事業の課題や今後の方策・方向性等について点検・評価を行い、意見聴取を行います。

### 3 議会への提出及び公表について

本報告書は、点検及び評価の結果をまとめたものであり、市議会へ提出するとともに公表することにより、透明性を高め効率的・効果的な事務改善に努めたいと考えます。公表に際しては、和歌山市教育委員会ホームページに掲載します。

[http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou\\_kyouiku/1000076/1000349/1001002.html](http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/gakkou_kyouiku/1000076/1000349/1001002.html)

## 別記①

### 第2次和歌山市教育振興基本計画（2019年度～2023年度）

#### 基本理念

## ともに学び ともに支えあい 未来につながる教育

教育の根幹は『人づくり』であり、その『人づくり』の基盤となるものは、学校だけでなく、家庭や地域を含めた社会全体と考えます。そこで、子供だけでなく、子供たちと共に過ごす家庭や地域の方々も一緒に学べる環境をつくり、地域のつながりをより強くします。また、様々な知識や経験を持った方々が結びつき、支えあうことによって、地域における課題解決や地域の発展につながることでできる社会をつくります。

これらの取組を通して、社会全体で将来の和歌山市を創造できる人を育てる教育をめざし、これを基本理念とします。

#### めざす人間像

### ○ 自ら考え、判断し、表現する力を持ち、規律ある行動をする人間

変化の激しい現代を生きていくために、基礎的な学力はもちろん、自ら考え、判断し、表現する力を身に付けた上で、社会の一員としての自覚を持って規律ある行動をとることのできる人間の育成をめざします。

### ○ 人権を尊重し、情操豊かにたくましく生きる人間

いじめや暴力などの問題行動をなくすために、生きることの尊さを理解し、自他の生命を大切にすることを育みます。また、様々な人権問題を正しく理解し、互いの立場を理解し、よりよい人間関係を築ける人間の育成をめざします。

### ○ 郷土を愛し、よりよい社会の形成者となる人間

自ら育った地域の歴史や文化のよさを知り、郷土を愛する心を育みます。また、ふるさと和歌山の地域の一員として、主体的に社会に貢献できる人間の育成をめざします。

## 基本方針

### I 社会を生き抜く子供たちの学力の育成

- ・ 確かな学力を育む教育の推進
- ・ 国内外の多様な分野で活躍できる人材を育む教育の推進

子供たちが毎日をいきいきと過ごせるよう、また、将来の夢や目標を実現するために必要な「確かな学力」を身に付けられるよう、信頼と期待に応える学校づくりに取り組みます。

さらに、日々変化していく情勢や国際化社会に対応できるよう、学力の向上だけでなく、資質や能力を伸ばし、たくましく生き抜く力を育みます。

### II 生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成

- ・ 豊かな心を育む教育の推進
- ・ 健やかな体を育む教育の推進
- ・ 人権を尊重する社会を築くための教育の推進

人権・同和教育や道徳教育を推進し、体験活動を充実させることで、子供たちの豊かな心を育みます。また、子供たちの体力向上や健康の保持増進を通して、生涯にわたって健康で安全に生活できるような健やかな体の育成に取り組みます。

### III 安全・安心な教育環境の整備

教育や学習方法の多様化に対応した施設、設備の充実を図るとともに、安心・快適に過ごせるように教育環境の整備や充実を図ります。また、校外においても、安全に過ごせるよう、地域や家庭、関係機関と連携して、子供たちを見守る環境づくりを推進します。

### IV 家庭や地域における教育力の向上

子供たちが基本的な生活習慣や自立心を身に付けるように、家庭での教育力の充実を図ります。また、地域における社会教育の拡充を支援し、学校・家庭・地域の一層の連携を図ることで青少年の健全育成に努めます。

### V 郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進

- ・ 生涯学習の推進
- ・ 芸術・文化の振興
- ・ 文化財の保護・活用
- ・ スポーツの振興

地域の拠点となるコミュニティセンターを中心に、生涯学習環境の整備、充実を図るとともに、生涯を通じて文化・スポーツ活動に親しめるよう、環境の充実を図ります。

## 計画の体系

基本方針	基本目標	基本施策
I 社会を生き抜く 子供たちの学力の育成	1 確かな学力を育む 教育の推進	1-1 教育課程の充実と学力の向上 1-2 信頼と期待に応える学校づくりの推進 1-3 学校の組織力と教職員の指導力向上
	2 国内外の多様な分野で 活躍できる人材を育む 教育の推進	2-1 国際化・情報化に対応した教育の推進 2-2 高等教育機関との連携強化
II 生涯を通じた豊かな心 と健やかな体の育成	3 豊かな心を育む 教育の推進	3-1 道徳教育の充実 3-2 郷土を愛するふるさと教育の推進 3-3 文化芸術教育の充実
	4 健やかな体を育む 教育の推進	4-1 学校体育の充実 4-2 健康教育の充実 4-3 食育の推進
	5 人権を尊重する社会を築くた めの教育の推進	5-1 人権・同和教育の充実
III 安全・安心な 教育環境の整備	6 安全・安心な 教育環境の整備	6-1 子供たちの安全の確保 6-2 学校教育環境の整備 6-3 学校の勤務環境の整備 6-4 学校適正規模化の推進
IV 家庭や地域における 教育力の向上	7 家庭や地域における 教育力の向上	7-1 家庭における教育力の充実 7-2 地域における教育力の充実
V 郷土に誇り と愛着を育む 文化・スポーツの振興 と生涯学習の推進	8 生涯学習の推進	8-1 生涯学習の啓発と機会の提供 8-2 生涯学習の場の整備・充実
	9 芸術・文化の振興	9-1 芸術・文化活動の推進 9-2 芸術・文化活動環境の整備・充実
	10 文化財の保護・活用	10-1 文化財の保護 10-2 文化財の活用
	11 スポーツの振興	11-1 生涯スポーツの振興 11-2 スポーツを通じた地域振興

## II 令和5年度教育委員会の活動状況

### 1 教育長及び教育委員

役職名	氏名	就任年月日	任期
教育長	あがた ひろし 阿形 博司	令和3年2月27日	令和3年2月27日～令和4年10月2日 令和4年10月3日～令和7年10月2日
教育長職務代行者	ふじもと さだお 藤本 禎男	平成28年10月1日	平成28年10月1日～令和2年9月30日 令和2年10月1日～令和6年9月30日 令和6年10月1日～令和10年9月30日
委員	もりさき ようこ 森崎 陽子	平成28年12月15日	平成28年12月15日～平成31年3月28日 平成31年3月29日～令和5年3月28日 令和5年3月29日～令和9年3月28日
委員	はとこ まさのり 波床 昌則	平成29年10月22日	平成29年10月22日～令和3年10月21日 令和3年10月22日～令和7年10月21日
委員	いしもと かずよ 石元 和代	令和4年12月28日	令和4年12月28日～令和8年12月27日

### 2 教育委員会会議の開催状況

月日	議案	報告	月日	議案	報告
4月12日	3	0	9月7日	4	0
5月11日	5	1	10月12日	3	2
6月8日	5	0	11月8日	3	0
7月11日	1	0	12月14日	1	2
7月20日	4	2	1月11日	5	2
7月27日	1	0	2月8日	4	1
8月1日	1	0	2月29日	3	0
8月10日	6	2	3月7日	5 (6)	3
9月1日	2	0	3月28日	2	2
			計	58件 (59件)	17件

※ ( ) 内は継続審議を含む件数

### 3 教育委員会会議議案一覧

月 日	
4月12日	令和5年度和歌山市教育委員会客員指導主事について
	令和6年度に和歌山市立和歌山高等学校で使用する教科用図書の採択について
	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
5月11日	令和4年度和歌山市立和歌山高等学校卒業生進路状況について
	教育財産の用途廃止について
	和歌山市民図書館運営審議会委員の任命について
	学校運営協議会委員の任命について
	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択に係る調査員の任命等について
	令和6年度に和歌山市立和歌山高等学校で使用する教科用図書の採択に係る選定委員の委嘱及び任命について
6月8日	和歌山市社会教育委員の委嘱について
	和歌山市民図書館運営審議会委員の任命について
	令和5年6月議会教育委員会関係の補正予算(案)について
	「こども家庭庁設置法の施行に伴う関係法律の整備に関する法律」の施行に伴う教育委員会所管条例の一部改正について
	人事案件について
7月11日	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
7月20日	6月定例会市議会について
	和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会委員の委嘱について
	令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
	和歌山市社会教育委員の委嘱について
	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
	令和6年度に和歌山市立和歌山高等学校で使用する教科用図書の採択について
7月27日	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
8月1日	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
8月10日	和歌山市民図書館指定管理者候補者の選定結果について
	令和5年度全国学力・学習状況調査について
	令和6年度に和歌山市立中学校及び義務教育学校後期課程で使用する教科用図書

	について
	和歌山市教育委員会職員の勤務時間等の特例に関する規則の一部改正について
	令和6年度和歌山市立和歌山高等学校入学者選抜実施要項について
	令和6年度に和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書の採択について
	人事案件について
	人事案件について
9月1日	令和5年9月議会教育委員会関係の補正予算(案)について
	和歌山市中学校給食センター整備運営事業者選定委員会条例の制定について
9月7日	令和5年度和歌山市教育功労者表彰について
	工事請負契約の締結について
	令和6年度和歌山市立和歌山高等学校各課程・学科の募集定員について
	令和6年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択に係る教育委員会会議議事録について
10月12日	9月定例市議会について
	令和6年度和歌山市立和歌山高等学校入学者選抜実施要項について
	令和5年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書(案)について
	和歌山市立幼稚園教頭候補者選考検査実施について
	令和5年度和歌山市川端龍子賞等の選考委員について
11月8日	和歌山市立学校給食共同調理場規則の一部改正について
	令和5年12月議会教育委員会関係の補正予算(案)について
	令和5年度和歌山市川端龍子賞等の選考委員について
12月14日	令和5年12月議会教育委員会関係の補正予算(追加)について
	令和6年(2024年)和歌山市はたちのつどいについて
	令和5年度末教職員人事異動方針について
1月11日	12月定例市議会について
	中学校給食センター整備運営事業における事業者選定結果について
	通学区域について
	和歌山市における一貫教育推進の新たな取組について
	令和5年度和歌山市児童生徒文化奨励賞の受賞候補について
	令和5年度和歌山市川端龍子賞等の受賞候補について
	人事案件について
2月8日	令和6年2月1日付け人事異動について
	令和6年2月議会教育委員会関係の補正予算(案)について
	令和6年2月議会教育委員会関係の当初予算(案)について

	夜間中学の設置について
	工事請負契約の締結について
2月29日	2024年度和歌山市学校教育指針について
	人事案件について
	人事案件について
3月7日	第3次和歌山市教育振興基本計画（案）について
	和歌山市立和歌山高等学校の教員の給与について
	令和5年度末退職校長に対する感謝状授与について
	2024年度和歌山市学校教育指針について（継続審議）
	和歌山市社会福祉審議会委員の推薦について
	和歌山市民図書館運営審議会委員の任命について
	和歌山市民図書館条例施行規則及び和歌山市コミュニティセンター条例施行規則の一部改正について
	令和6年度教科書採択に係る基本方針について
	人事案件について
3月28日	2月定例会市議会について
	夜間中学の設置について
	和歌山市社会教育委員の委嘱について
	人事案件について

#### 4 教育委員会会議以外の主な活動状況

実施日	訪問先・参加行事	内 容
5月31日	令和5年度和歌山県市町村教育委員会連絡協議会定期総会	会議への出席
7月28日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会	研修への参加
8月21日	令和5年度第1回和歌山市総合教育会議	会議への出席
11月7日	令和5年度近畿市町村教育委員会研修大会	研修への参加
11月12日	令和5年度和歌山市教育功労者表彰式	式典への出席
11月14日	令和5年度和歌山県市町村教育委員会研修会及び和歌山県市町村教育委員会連絡協議会研修会	研修への参加
12月21日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会	研修への参加
1月7日	和歌山市はたちのつどい	式典への出席
2月2日	和歌山市児童生徒文化奨励賞	式典への出席
2月9日	令和5年度市町村教育委員会研究協議会	研修への参加
2月17日	和歌山市公民館フェスティバル実践発表会	行事への出席
3月8日	中学校・義務教育学校卒業式	式典への出席
3月18日	小学校卒業式	式典への出席
3月26日	和歌山市川端龍子賞表彰式	式典への出席

#### 5 教育委員会の活動状況の評価

##### 【評価】

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが引き下げられたことに伴い、学校訪問、各種会議や研修会への参加などを通じて教育委員としての必要な知識を深めるとともに、各種行事や式典へ出席するなど、多岐にわたり活発に活動することができた。

昨年度の総合教育会議においては、「第3次和歌山市教育振興基本計画（和歌山市教育大綱）」について市長等と議論を交わした。

また、教育委員会会議においても各委員専門分野の視点から議案等に対する活発な議論を交わし、円滑な教育行政の推進を図ることができた。

##### 【今後の取組】

学校訪問、教職員との意見交換、各種会議への出席等を積極的に行い、子供たちの学習環境の改善はもとより、社会全体の教育の推進に努めます。

また、総合教育会議等を通し、市長と教育委員会が重点的に講ずべき施策等について引き続き協議・調整を行い、より一層民意を反映した教育行政を推進していきます。

### Ⅲ 点検及び評価

第2次和歌山市教育振興基本計画の施策体系に沿って、令和5年度に重点的に取り組んだ事務事業の状況とその評価を行った。

また、令和6年度の主な取組を明らかにした。

※ 各主な取組の自己評価については、「A：予定以上の成果があった。」、「B：予定どおりに達成できた。」、「C：予定の一部が達成できなかった。」で評価を行っている。

※ 成果指標・目標の自己評価については、「○：計画目標値以上」、「△：基準値以上かつ計画目標値未満」、「×：基準値より悪化」で評価を行っている。

※ 各取組全体の評価については、「A：主な取組の自己評価が全てB以上でAが一つ以上あり、指標の自己評価が○」、「B：取組の自己評価が全てB以上かつ指標の自己評価が全て△以上（A以外）」、「C：A，B以外」で評価を行っている。

<b>基本方針 I</b>	<b>社会を生き抜く子供たちの学力の育成</b>
基本目標 1	確かな学力を育む教育の推進
施策 1-1	教育課程の充実と学力の向上

取組 1-1-①

学力の向上

担当課 学校教育課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	教員の授業力向上のための授業研修会を各教科で開催し、児童生徒が主体的に学ぶ授業研究を行う。また、全国学力・学習状況調査結果から市の成果と課題を提示し、各学校の実態に応じた取組を進める。	自己評価
	評価	成果	B
		課題	
②	取組内容	小学校入学後に児童がスムーズに学校生活を送れるようにスタートカリキュラムを作成し、児童の発達の特徴に沿った学習を進める。	自己評価
	評価	成果	B
		課題	

成果指標・目標の状況								
①	指標名	全国学力・学習状況調査平均正答率の全国比（小学校）					自己評価	
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×	
	【2018】 国語A ±0 国語B +1 算数A -1 算数B ±0	新型コロナ ウイルス感 染拡大防止 のため未実 施	国語 ±0 算数 ±0	国語 -2 算数 ±0	国語 +2 算数 ±0	各教科の全 国比を+に する。		
	指標名	全国学力・学習状況調査平均正答率の全国比（中学校）						
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)		
	【2018】 国語A -4 国語B -6 数学A -4 数学B -7	新型コロナ ウイルス感 染拡大防止 のため未実 施	国語 -7 数学 -5	国語 -5 数学 -4	国語 -7 数学 -5	各教科の全 国比を3ポ イント以上 縮める。		

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題対応に取り組み、授業づくりにも反映することができており、基礎的な学力は定着してきている。しかし、思考力、判断力、表現力等が伸ばしきれていない。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	各教科の授業研修会の開催
②	幼小接続のためのスタートカリキュラムの活用研修会の実施
③	家庭の学習習慣定着のための取組

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	小中一貫教育研究報告会等を実施し、義務教育学校の現状の把握及び課題の検討を行う。		自己評価  B
	成果	伏虎義務教育学校において、学校教育課と連携し、先進地域への視察や校内研修を行い、現状把握と課題の検討と、9年間で目指すべき子供像の設定を行った。さらに、文部科学省の研究指定を受け、生成AIを活用した義務教育学校における校務の効率化を研究し、その成果を全国の学校に向けて発表した。		
	課題	9年間を見据えた、目指すべき子供像や教育課程を構築するため、より効果的な授業研究や検討部会の在り方について検討する必要がある。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	小中一貫教育研究報告会の開催回数					自己評価  ○
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
	4回	3回	2回	2回	5回	5回	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	事業が予定通り実施されたため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	伏虎義務教育学校及び新たに小学校と教育課程に関する共通の取組を行った中学校に関する情報等を収集し、その成果を検証することにより、9年間を見通した教育課程について、市内小・中学校への導入に向けて、更なる検討を進める。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	教科書採択関係法令及び「和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書の採択に関する条例」に基づき、適正かつ公正に教科書採択を行う。	
	評価	成果	令和6年度使用小学校教科用図書の採択について、「和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書の採択に関する条例」に基づき、適正かつ公正に採択を行うことができた。
		課題	市役所及び各コミュニティセンターで開催する教科書展示会において、多くの方から意見をいただけるように周知に努める。
			自己評価  B

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	市条例に基づき、適正かつ公正に採択を行うことができた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	令和6年度は、令和7年度使用中学校教科用図書の採択があり、市条例に基づき、適正かつ公正に教科書採択を行う。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価					
①	取組内容	(市) 図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館との連携による読書活動の推進に継続して取り組む。		自己評価	
	評価	成果	(市) 図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館と連携しながら、読書活動の推進に継続して取り組んだ。		B
		課題	引き続き、(市) 図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館との連携による読書活動の推進に継続して取り組む。		
②	取組内容	国語科の学習内容と関連させた、読書活動の充実を継続する。		自己評価	
	評価	成果	(市) 図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館と連携しながら、国語科の学習内容と関連させた、読書活動の充実を行った。		B
		課題	今後も国語科等の学習内容と関連させた、読書活動の充実の維持に努める。		

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	各学校で(市) 図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館等と連携しながら、国語科等の授業づくりができた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	(市) 図書館教育研究会、学校図書館司書、市民図書館との連携による読書活動の推進を図る。
②	学習内容と関連させた、読書活動の充実を進める。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	幼稚園・保育所・認定こども園合同研修へ積極的に参加する。		自己評価
	評価	成果	公立幼稚園11園参加することができた。集合研修を行うことができた。幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図るため、各園・各学校で交流することができた。	B
		課題	幼児期の教育・保育と小学校教育との円滑な接続を図るため、今後も積極的に参加していく。	
②	取組内容	園内外で研究を進め、更なる幼児教育の充実を図る。		自己評価
	評価	成果	保育を見合うことはできなかったが、環境整備の見合いや各園内で研究を進め、幼児教育の充実に努めることができた。	B
		課題	引き続き、工夫をしながら園内外での研究を進める。	

成果指標・目標の状況						
①	指標名	幼稚園・保育所・認定こども園合同研修参加園（所）数				自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	△
	17園(所)	16園(所)	21園(所)	22園(所)	22園(所)	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	保育教育の充実に向けて研究を進めたが、研修へは園行事等が重なり参加できなかった園があった。参加できなかった園については、資料等を配布し共有した。今後もできるだけ研修へ参加できるよう促していく。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	幼稚園・保育所・認定こども園合同研修へ公立幼稚園11園参加する。
②	園内外で研究を進め、幼児教育の充実を図る。

施策 1-2	信頼と期待に応える学校づくりの推進
--------	-------------------

取組 1-2-①	地域とともにある学校づくりの推進	担当課 学校教育課
----------	------------------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	学校運営協議会の開催		自己評価  B
	成果	和歌山市内公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校のうち、20校が2回、48校が3回の学校運営協議会を開催した。		
	課題	新型コロナウイルス感染症は5類に移行されたが、開催回数を縮小したままの学校がある。		
②	取組内容	学校運営協議会の実施に係る報告書の提出		自己評価  B
	成果	学校運営協議会において協議が行われた内容や、学校運営協議会をきっかけにして行われた活動を把握することができた。		
	課題	各学校の取組を、各学校間で広く周知していく方法について検討していく必要がある。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	学校開放月間中の来校者数					自己評価  ×
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
	44,676人	16,200人	21,304人	26,884人	28,123人	55,000人	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	新型コロナウイルス感染症は5類に移行されたが、学校運営協議会の活動機会及び地域の方々の来校の機会は、元に戻ったわけではない。そのため実施値と基準値の差が大きく妥当性がない。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	学校運営協議会を年3回以上開催する。
②	学校運営協議会の成果を報告書として提出する。
③	スクールプランを作成しホームページへ掲載する。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	発達障害等で困り感を持つ児童生徒に対して、学習や生活の支援等、個に寄り添った教育環境づくりを推進するために、特別支援教育支援員等の配置・研修を行った。また、特別支援教育専門員の巡回支援訪問により、支援体制・方法等の指導助言を行った。		自己評価
	評価	成果	学級担任だけではできない細かい対応や個別の支援により、支援を必要とする子供たちの学びの喜びや達成感、自尊感情が高まった。効果的な支援体制が構築できた。	B
		課題	年々支援を必要とする児童生徒が増えており、配置した特別支援教育支援員等の専門性の向上が課題である。	
②	取組内容	個に応じた指導支援を継続して進めていくために、学校が家庭や医療機関等と連携協力し「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」（つなぎ愛シート）の作成を推し進めた。		自己評価
	評価	成果	合理的配慮専門員によるアセスメントから「個別の指導計画」の支援内容が充実した。また、「個別の教育支援計画」が定着し、支援の引継ぎ・連携等が可能となった。	B
		課題	「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」の記載についての指示や助言を行い、より一層、個々の指導支援や評価に生かせるものにしていくことが課題である。	
③	取組内容	教育支援委員会における関係機関との連携、適正な学びの場の提供を行うことができた。また、教員の専門性の向上を図る研修の実施等を推し進めた。		自己評価
	評価	成果	教育支援委員会では、397名の児童生徒について適切な就学先を判定することができた。また、教員の専門性の向上を図る研修を例年通り実施できた。	B
		課題	新任の若い教員や経験のない教員が増える中、子供への関わり方や支援の手立てといった専門性を高めていくことが課題である。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	特別支援教育支援員の配置率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	58%	64%	64%	65%	67%	70%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	事業が予定通り実施されたため。指標では、特別支援教育支援員の配置となっており実績値は目標値に達していないが、特別支援教育支援補助員を含めた配置では計画目標値を超えている（95.6%）。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	特別支援教育支援員・支援補助員の配置及び特別支援教育専門員の巡回支援訪問を行う。
②	「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」（つなぎ愛シート）の作成
③	教員の専門性の向上を図る研修の実施

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容		和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会を2回開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための方策についていただいたご意見を集約し、保護者や教職員向けの啓発リーフレットに反映し、配布した。	自己評価
	評価	成果	保護者からの各校への相談（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの相談を含む）や、子ども支援センターへの来所又は電話相談につながるなど、解決に向けての意識啓発ができた。	B
		課題	スマートフォン等の普及により、SNS上でのいじめなど内容が多様化しており、保護者や教職員等、周囲の大人が発見しにくい。	
②	取組内容		スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置により、関係機関との連携を進めた。	自己評価
	評価	成果	心理的不安への対応、環境への働きかけを行うことで、各校でいじめの背景や要因を分析し、適切な働きかけができた。	B
		課題	表面上現れにくい、潜在的な問題への働きかけが必要。	
③	取組内容		いじめの早期発見のため、定期的なアンケート調査や教育相談を実施し、児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整え、心の不安や悩みを安心して発信できるような取組を大切にし、個々の実態把握に努めた。	自己評価
	評価	成果	教職員のいじめについての意識が高くなり、小さいいじめでも早期に発見することができるようになっている。	B
		課題	インターネット上でのいじめについては、発見しにくいところがあるため、予防的な授業、いじめを許さない環境づくりをしていくことが必要である。	

成果指標・目標の状況							
	指標名	いじめ問題の解消率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
①	98.21%	76.0% ※いじめ防止のための基本方針が改定された後の数値となっているため、基準値より低い値となっている。	76.5%	82.2%	79.5%	100%	×

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	職員のいじめについての意識が高くなり、小さいいじめでも早期に発見することができるようになってきている。インターネット上でのいじめについては、発見しにくいところがあるため、予防的な授業、いじめを許さない環境づくりをしていく必要がある。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	和歌山市いじめ・不登校問題に関する検討委員会を開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決のための方策を検討する。
②	スクールカウンセラーの全校配置、スクールソーシャルワーカーの全中学校配置により、いじめの要因や背景を適切に見立て、関係機関との連携を強化し、組織での対応力を強化する。
③	いじめの早期発見のため、定期的なアンケート調査や教育相談を実施し、児童生徒がいじめを訴えやすい体制を整え、心の不安や悩みを安心して発信できるような取組を大切に、個々の実態把握に努める。

取組 1-2-④

不登校への対応

担当課 学校支援課

子ども支援センター

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教職員との連携による適切なアセスメントに基づき、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努める。		自己評価
	評価	成果	不登校の未然防止や早期対応につながるよう、相談活動を行い、アセスメント、プランニング、役割分担等を行い、適切な関係機関との連携、及び継続支援が行うことができている。	B
		課題	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの限られた配置日数の中での効果的な活用。ヤングケアラーや性的マイノリティに関する支援等、多岐にわたる支援が必要とされている。	
②	取組内容	ふれあい講座や不登校対応研修等の取組を充実させ、教職員の不登校に対する理解を深め、対応力を高める。適応指導教室（ふれあい教室）において、社会的自立や登校復帰に向けて、ICTを活用した学力補充や集団適応力を高める取組を充実する。		自己評価
	評価	成果	ふれあい講座では大学教授や臨床心理士を講師に迎え、「こども理解」について研修を行った。また、要請のあった校内研修や研究部会研修、生徒指導主任会研修において、不登校児童生徒への支援の在り方について伝えることで、教職員の理解を深めることができた。ふれあい教室では、ICT教材を活用した学力補充や、体験活動では子供が自己の課題に向き合いチャレンジすることで、自己肯定感や社会的自立の意識を高めることができた。	B
		課題	通級生が151人となり、ここ数年高止まりしている。子供が抱える背景は多岐にわたり個別対応を要するケースも増加している。今まで以上にきめ細かで、多様な支援が必要となり、教職員全体への周知を継続していく必要がある。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	「ふれあい教室」への通級率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	15.2%	24.2%	22.3%	17.0%	15.9%	25.0%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	ふれあい教室の通級生数はここ数年高止まりである。また学校内外の機関等で指導・相談を受けている不登校児童生徒の割合は2022年度小学校で58.9%、中学校で36.1%であり、担任以外の専門職員や関係機関等どこにもつながっていない児童生徒の数を0に近づけていく必要がある。要因は多岐にわたり、支援の方法も様々であるが、不登校児童生徒への支援の在り方と相談先、居場所についての周知、そして関係機関との連携を継続して行う必要がある。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと教職員との連携による適切なアセスメントに基づき、不登校の未然防止、早期発見、早期対応に努める。
②	ふれあい講座や不登校支援の在り方に関する研修等の取組を充実させ、教職員の不登校支援に対する理解を深め、対応力を高める。ふれあい教室において、社会的自立や登校復帰に向けて、ICTを活用した学力補充や個別面談、集団適応力を高める取組と、保護者の支援を充実する。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容		子ども支援センターにおいて、来所相談、電話相談を実施する。	自己評価
	評価	成果	来所相談は今年度1488人、電話相談は867回。教職員の相談も増え、関係機関との有効な連携につながった。また、電話相談から来所相談やふれあい教室へつながったケースもあった。	B
		課題	相談員の数が限られているため、来所日の設定で数日待ってもらわなければならないことがある。	
②	取組内容		スクールソーシャルワーカー、教職員を対象としたスーパーバイザーによる研修を実施し、組織での支援体制の充実を図る。	自己評価
	評価	成果	事例検討や、スクールソーシャルワーカーの効果的な活用について、支援の基本的な流れや予防対策を含め、組織での支援体制充実に向け、理解を深めた。	B
		課題	関係機関との連携も含めた支援体制の充実に向け、今後も研修が必要。	
③	取組内容		相談員、スクールカウンセラーを対象にスーパーバイザーによる研修や事例検討を実施し、力量を高める。	自己評価
	評価	成果	多岐にわたる子供たちが抱える課題や背景等への多様な支援について、専門的な研修や事例検討の実施により、医療的な連携を含む、親子の心理的な安定に向けた効果的な働きかけができた。	A
		課題	スーパーバイザーによる専門的な研修の拡充。	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	A	スクールソーシャルワーカーの全中学校・義務教育学校区への配置と、研修の実施により、福祉的な視点を含む関係機関との連携による組織的な支援体制の構築と周知が進んできている。また、小学校での支援件数も増加傾向にあり、支援の早期開始につながっている。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	子ども支援センターにおいて、来所相談、電話相談を実施する。
②	スクールソーシャルワーカー、教職員を対象としたスーパーバイザーによる研修を実施し、組織での支援体制の充実を図る。
③	相談員、スクールカウンセラーを対象にスーパーバイザーによる研修や事例検討を実施し、力量を高める。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	交通安全教室や自転車の乗り方教室等を実施し、児童生徒への安全指導を行う。		自己評価
	評価	成果	小学校においては、毎年、交通安全教室の実施ができています。	B
		課題	交通安全教室を実施している中学校は半数程度であり、啓発が必要。	
②	取組内容	通学路における安全確保のため、警察や地域の見守り隊等と連携した取組を進め、より安心安全な地域環境の実現に努める。		自己評価
	評価	成果	各地域で学校を核として、警察や見守り隊との連携を図り、通学路の安全確保に努めることができた。	B
		課題	今後も地域連携を図り、和歌山市の安全のために取組を続ける。	
③	取組内容	避難訓練においては、学校だけでなく、保護者や地域と協同した訓練を実施し、災害時に適切な避難行動がとれるよう取り組む。		自己評価
	評価	成果	市立小・中・高等学校において、各校で工夫して避難訓練に取り組むことができた。	A
		課題	今後も保護者や地域と連携を図り、防災意識の向上のために取組を続ける。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	交通事故件数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	小35件 中29件	小30件 中24件	小38件 中36件	小35件 中21件	小36件 中26件	0件	
②	指標名	防災訓練の実施回数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	182回	166回	194回	211回	226回	200回	
③	指標名	地域や他の学校園と連携した防災訓練の実施校数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	29校	28校	42校	44校	46校	40校	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	防災訓練においては市立全校で、交通安全教室においては小学校全校で実施することができた。しかし、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、児童生徒の外出の機会が増えたことで交通事故件数も増加したため、一層の啓発が必要である。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	中学校における交通安全教室実施の啓発
②	市内全校において防災教育を実施すると共に、手引きやハンドブック、リーフレットを利用した多様な学習を推奨する。
③	地域や他の学校園との連携や消防・警察・自衛隊等の協力を推進する。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	就学援助制度により、経済的に困っている家庭に学用品費や給食費などにかかる費用の一部を支給した。	
	評価	成果	学用品費や給食費等にかかる費用の一部を助成及び新入学学用品費の前倒し支給を行ったことにより、保護者の負担軽減を図れた。
		課題	就学援助制度により、経済的に困っている家庭に学用品費や給食費などにかかる費用の一部を支給していく。
②	取組内容	特別支援教育就学奨励費制度により、特別支援学級在籍児童生徒で世帯の収入が基準額以下となる者に対し、学用品費、給食費及び修学旅行費の費用の一部を支給した。	
	評価	成果	学用品費や給食費等にかかる費用の一部を助成したことにより、保護者の負担軽減を図れた。
		課題	特別支援学級在籍児童生徒で世帯の収入が基準額以下となる者に対し、学用品費、給食費及び修学旅行費の費用の一部を支給していく。
			自己評価
			B
			自己評価
			B

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	予定通り事業を行えた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	就学援助制度により、経済的に困っている家庭に学用品費や給食費などにかかる費用の一部を支給する。
②	特別支援学級在籍児童生徒で世帯の収入が基準額以下となる者に対し、学用品費、給食費及び修学旅行費の費用の一部を支給する。

施策 1-3	学校の組織力と教職員の指導力向上
--------	------------------

取組 1-3-①	専門教員の活用	担当課 学校教育課
----------	---------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
-----------------------	--	--	--

①	取組内容	専門的な知識や技術を有する講師や、様々な分野での経験豊かな講師を招き、特色ある幅広い多様な教育への対応に寄与すべく各校に特別非常勤講師を配置する。		自己評価
	評価	成果	ゲストティーチャーによる講義を300時間実施する計画をし、令和5年度は300時間講義を行うことができた。専門的な知識や技能を持った講師が授業を行うことで、より専門的な授業を行うことができた。	B
		課題	新型コロナウイルスが落ち着き、学校からの特別非常勤講師の依頼数がコロナ禍前と同じ位に戻ってきているため、限られた予算内に収めるために、配置校及び時数を今まで以上に検討する必要がある。	
②	取組内容	問題行動への迅速な対応、学習環境充実のための校内巡回、児童生徒への個別対応等、また学校運営が円滑に行われるよう、配置校数30校を目標とし、計画的に生徒指導補助員を配置する。		自己評価
	評価	成果	年度当初の4月と、問題行動が起きやすい長期休暇明けに配置時期を分散させて生徒指導補助員を配置したことで、限られた予算の中でできる限り多くの学校へ生徒指導補助員を配置することができた。	B
		課題	配置時期を分散させることで、多くの学校に生徒指導補助員を配置することができたが、依然学校からの配置要望は多い。学校現場において、総合的な生徒指導が充実するよう、より一層、要望と実態に即した職員の配置を検討する。	

成果指標・目標の状況						
------------	--	--	--	--	--	--

①	指標名	特別非常勤講師配置時間					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	200時間	314時間	280時間	300時間	300時間	300時間	
②	指標名	生徒指導補助員配置学校数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	24校	31校	28校	21校	24校	35校	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	それぞれの専門教員を希望する学校に配置することで、児童生徒により充実した指導を行うことができたが、学校からの配置要望が多く、限られた予算内では全ての配置要望を叶えることが難しい。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	ゲストティーチャーによる講義については、専門的な知識・技能のある講師を、配置希望している学校に配置していく。
②	生徒指導補助員については、児童生徒の様子を把握しながら、課題が見られる学校に対して、配置希望している学校に配置していく。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容		臨時的任用教員から採用後10年を経過した教員、新任教務主任、新任教頭、新任校園長など教員のライフステージに応じて必要とされる基本的な資質・能力を育成する研修や教科指導等の専門性を高める専門研修を実施する。	自己評価
	評価	成果	専門研修講座を17回実施した。各教科の専門性を高めるための研修だけでなく、幼児教育や学級経営、子供理解など教員が学校現場で役立つ内容で参加者からは内容について好評だった。	B
		課題	教育現場での喫緊の課題など教職員のニーズに対応した研修を設定し、専門性や授業力の向上を目指す。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	専門研修受講者数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	1,074人	1,082人	944人	904人	1,021人	1,100人	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	目標値にはわずかに届かなかったが、コロナ禍が明け、集合研修が実施しやすくなったことで、どの研修でも予定していた定員の参加者があり、教員のニーズに合った研修を実施できた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	臨時的任用教員から採用後10年を経過した教員、新任教務主任、新任教頭、新任校園長など教員のライフステージに応じた研修や教科指導等の専門性を高める専門研修について、研修の実施形態も工夫しながら多くの教員の参加を目指す。

基本目標 2	国内外の多様な分野で活躍できる人材を育む教育の推進
施策 2-1	国際化・情報化に対応した教育の推進

取組 2-1-①	英語教育・国際理解教育の充実	担当課 学校教育課
----------	----------------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	和歌山県国際人育成プロジェクト事業で、中学3年生全員の英語検定受験を行う。		自己評価
	評価	成果	英検3級以上の所持率が、令和4年度は40.9%であったが、令和5年度は40.0%と、ほぼ同じであった。	B
		課題	英検受験のための学校での事前指導や、動機付け、受験級の設定などが十分ではないこともあった。	
②	取組内容	小学校における効果的な英語の指導方法や、指導についての研究を進め、教員の指導力の向上を図る。		自己評価
	評価	成果	研修を重ねることで、小学校の担任や外国語担当教員が、新学習指導要領の外国語教育をさらに深く理解し、授業改善に向けての意識が高まった。	B
		課題	学校、教員によって授業改善に向けての意識の差があること。	
③	取組内容	カナダのリッチモンドと交流することで、国際理解を深める。		自己評価
	評価	成果	英語で書いた手紙でのやり取りを行うことができた。	B
		課題	交流をもつことができなかった学校もあるので、交流をもつことができるように取り組んでいく。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	中学3年生の英語検定3級取得率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	28.0%	32.3%	38.4%	40.9%	40.0%	40.0%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	授業改善に向けて一定の効果は見られるが、学校間や学年、担当教員によつての差が大きく、全市的に引き続き取り組んでいく必要がある。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	和歌山県国際人育成プロジェクト事業で、中学1～3年生を対象とした英検I B Aを行う。
②	効果的な外国語活動および外国語科の指導についての研究を進め、教員の指導力の向上を図る。
③	小学校における英検E S Gへの取組を通じて、小中連携を図るとともに、児童生徒の、より一層の英語力向上を図る。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価					
①	取組内容	GIGAスクール構想により学校に導入した児童生徒1人1台端末の操作・活用研修等を実施する。		自己評価	
	評価	成果	オンライン研修を含む集合研修を実施し、延べ494人の教員が研修を受講し、授業でのICTの活用の方法を学んだ。		B
		課題	GIGAスクール構想の充実に向け、教員それぞれの活用スキルに応じた研修内容を設定し、研修への参加機会を増やすように努める。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	「教員のICT活用指導力調査」（文部科学省実施）において「授業中のICT活用」に『できる』『ややできる』と答える教員の割合				自己評価	
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	75.5%	69.1%	72.7%	75.4%	72.9%	85.0%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	小・中学校ともに研修も実施し、授業での活用は浸透してきているが、多様な機能を使いこなせていないと感じている教員が多いため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	GIGAスクール構想の更なる充実のため、ICT活用研修の内容をより具体的な活用法を中心に設定する。また、各校の好事例を積極的に市内学校に周知していく。

施策 2-2	高等教育機関との連携強化
--------	--------------

取組 2-2-①	大学等との連携強化と充実	担当課 学校教育課
----------	--------------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	和歌山大学教育学部をはじめ他の大学等と連携し、学生のボランティア登録の増加を推進し、和歌山市立の幼・小・中・高等学校（園）に学生を派遣することで、学校（園）の現場を人的配置の面から支えるとともに、未来の和歌山市の教育を支える人材の育成を推進する。		自己評価  B
	成果	令和5年度は、派遣希望50校（園）に対して、34校（園）に131人の教育ボランティアを派遣し、訪問回数は延べ982回行った。配置校からは、学生ボランティアに対し、高評価を得ている。		
	課題	学校からの要望は強く、訪問回数は徐々に増加しているが、他府県、他市町でもボランティア活動を開始しており、和歌山市でボランティアを行う学生の確保が難しい状況である。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	教育ボランティア延べ派遣回数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
	1,747回	229回 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、派遣回数が減少した。	614回 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、派遣回数が減少した。	743回 *新型コロナウイルス感染拡大防止のため、派遣回数が減少した。	982回	3,500回	×

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	他府県、他市町でもボランティア活動を開始しており、和歌山市でボランティアを行う学生の確保が難しい状況である。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	活動の拡大と事業内容の充実を図れるように、和歌山大学及び他大学と連携しながら、教育ボランティアの派遣を引き続き実施していく。

<b>基本方針Ⅱ</b>	<b>生涯を通じた豊かな心と健やかな体の育成</b>
<b>基本目標3</b>	<b>豊かな心を育む教育の推進</b>
施策3-1	道徳教育の充実

取組 3-1-①

「心の教育」の充実

担当課 学校教育課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	道徳の授業力向上を図る。		自己評価
	評価	成果	「特別の教科 道徳」の研究校を中心に、授業力の向上に取り組んだ。	B
		課題	引き続き授業力の向上に努める。	
②	取組内容	体験活動、交流活動の計画的な実施を行う。		自己評価
	評価	成果	体験活動、交流活動を計画し、工夫して実施することができた。	B
		課題	引き続き体験活動、交流活動の計画的な実施を行う。	
③	取組内容	道徳の公開授業を実施する。		自己評価
	評価	成果	道徳の公開授業を実施することができ、校内外で交流することができた。	B
		課題	引き続き、道徳の公開授業を実施するなどして道徳教育の充実に努める。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	「学校のきまり（規則）を守っている」と答える児童生徒の割合（全国学力テスト質問項目）					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	【小学校】 87%	新型コロナ ウイルス感 染拡大防止 のため未実 施	質問項目なし	質問項目なし	質問項目なし	100%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	自分のこととして捉えることを難しく感じたり、好きになれなかったりする児童生徒がいるため、主体的に楽しく学び、物事を多面的・多角的に捉え議論する授業を継続してめざしていくことが求められる。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	児童生徒が主体的に取り組む「特別の教科 道徳」の授業づくりに努める。
②	地域の方々や専門的な方との積極的な交流を行う。
③	道徳の公開授業を実施する。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	地域の人材を学校に招き、外部講師として児童生徒に授業を行う。		自己評価
	評価	成果	小学校では、積極的に地域人材を活用し、活用率が100%の実績であった。昨年度94.1%から増加した。 中学校では、積極的に地域人材を活用し、活用率が100%の実績であった。昨年度66.6%から大幅に増加した。	A
		課題	今後も継続して取組を続けていく。	
②	取組内容	小学校では、「かがやく和歌山市」等の副教材を使いながら、校区や和歌山市のことを学び、和歌山市の施設等にも校外学習として見学を行い、ふるさとの魅力を感じられるように取り組む。		自己評価
	評価	成果	副教材が全ての児童に配布されているため、授業でも扱いやすく和歌山についての学習に取り組んでいる。また、小学校では、校外学習の実施が増加し、ふるさとの魅力を直接感じられる体験を行うことができている。	B
		課題	小学校では、校外学習も増え、地域と関わる活動が増えてきたが、中学校では、学校によって差があることが現状である。	
③	取組内容	中学校では、歴史の学習の中で、和歌山の偉人・先人等についての学習を行い、彼らの取組を学ぶ。		自己評価
	評価	成果	社会科・総合的な学習において、社会見学を行ったり、「わかやま何でも帳」を用いたり、和歌山の先人について学ぶ機会をもつことができた。	B
		課題	授業時数のこともあり、中学校での取組が少ない。県主催のふるさと和歌山学習大賞への応募を積極的に促したい。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	地域の方が外部講師として授業を行った学校の割合					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	【小学校】 70.6%	【小学校】 92.2%	【小学校】 98.1%	【小学校】 94.1%	【小学校】 100%	【小学校】 80.0%	
【中学校】 50.0%	【中学校】 50.0%	【中学校】 42.1%	【中学校】 66.6%	【中学校】 100%	【中学校】 60.0%		

自己評価		
評価	2023	評価理由
	A	小学校・中学校ともに積極的に地域人材を活用し、活用率が100%の実績であった。 これからもふるさとの魅力を感じられるような取組を進めていく。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	地域の人材の積極的な活用を促進する。
②	小学校では、「かがやく和歌山市」等の副教材を使いながら、校区や和歌山市のことを学び、和歌山市の施設等にも校外学習として見学を行い、ふるさとの魅力を感じられるように取り組む。
③	和歌山にゆかりのある、偉人・先人について学習し、ふるさに愛着をもてる取組を行う。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	小学校では夢や仕事について興味を持てるように学習し、中学校では職業体験を通じて、将来の仕事や進路について学習を行う。		自己評価
	評価	成果	学校へゲストティーチャーを招聘して授業を行ったり、ゲストティーチャーの招聘と事業所での職場体験を組み合わせたなど、工夫しながらキャリア教育を行うことができた。	B
		課題	実際に体験する機会が少なくなる学校もあった。	
②	取組内容	学校・学年のつながりをより意識した学校での計画を作り、実践していく。		自己評価
	評価	成果	小学校、中学校において、年間指導計画を系統立てて作成し、実施することができた。	B
		課題	新型コロナウイルス感染症が5類に移行したが、職場体験を受け入れる事業所の数が減少したままの学校もあり、予定していた取組を変更、または中止せざるを得ないこともあった。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	【小学校】 85.5%	新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施	【小学校】 80.4%	【小学校】 79.3%	【小学校】 80.7%	【小学校】 90.0%	
【中学校】 66.7%		【中学校】 66.1%	【中学校】 66.3%	【中学校】 64.3%	【中学校】 70.0%		

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	「将来の夢や目標を持っている」と答える児童生徒の割合は大きく変動はなかったが、計画目標値には到達していない。引き続き、キャリア教育に取り組み、職業観や勤労観を育成する必要がある。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	コロナ禍により職場体験などが制限されてきたが、以前のように職場体験に取り組むとともに、ゲストティーチャーの招聘なども取り入れながら、キャリア教育を進める。
②	学校間・学年間のつながりを意識し、計画を作り、実践していく。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容		森林の働きについて学習したり、林業に対する理解を深めたりするため、緑育体験を行う。	自己評価
	評価	成果	令和5年度は、予定していた学校（47校）全てで実施することができた。緑育体験を通して、森林の働きや林業に対する理解を深めることができた。	
		課題	より多くの学校が体験できるよう事業を推進する。	
②	取組内容		青少年国際交流センター等における宿泊体験活動を通して、自然に親しむ活動を充実する。	自己評価
	評価	成果	主に5年生を対象に自然体験活動を計画的に実施することができた。自然の中で様々な体験をすることで、自然の大切さに気付くことができた。	
		課題	今後もより体験活動が充実するよう取組を続ける。	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	A	予定通り事業を実施できたため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	青少年国際交流センター等における宿泊体験活動を通して、自然に親しむ活動を充実する。
②	森林の働きについて学習したり、林業に対する理解を深めたりするため、緑育体験を行う。

施策 3-3 | 文化芸術教育の充実

取組 3-3-① | 文化芸術に関する学習や体験活動の充実 | 担当課 学校教育課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒へ体験活動を実施する。	
	評価	成果	国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒が具体的な体験活動を通じて文化芸術に親しむことができた。
		課題	今後も国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒へ体験活動を実施していく。
②	取組内容	小・中学校音楽会、学校美術展、和歌山市川端龍子賞等表彰事業、和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰事業を行う。	
	評価	成果	和歌山市川端龍子等表彰事業では、団体賞3校、個人賞23点が選ばれ、和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰事業では、個人の部で3名、団体の部で1団体が受賞した。
		課題	今後も小・中学校音楽会や学校美術展で交流した成果を日頃の教育活動に生かし、音楽や図画工作・美術教育を充実させていく。

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	それぞれの活動を実施することができたため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	国及び和歌山県、関係団体が主催する公演事業を積極的に活用し、児童生徒へ体験活動を実施する。
②	小・中学校音楽会、学校美術展、和歌山市川端龍子賞等表彰事業、和歌山市児童生徒文化奨励賞表彰事業等を行う。

基本目標 4	健やかな体を育む教育の推進
施策 4-1	学校体育の充実

取組 4-1-① | 学校体育の充実 | 担当課 学校教育課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	学校内外を通じて運動機会を確保する取組や環境整備を行う。		自己評価
	評価	成果	学校内に気軽に体力測定や運動に取り組める環境をつくる（握力計を置いておく等）ことで、日常の学校生活の中で運動する子が増えた。 きのくにチャレンジランキングを活用することで、運動への興味付けができた。	B
		課題	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、運動する子としない子の2極化が課題である。休み時間にも外遊びを推奨していく必要がある。	
②	取組内容	全国体力テストの結果を受けて、苦手な部分を向上できるように取組を行う。		自己評価
	評価	成果	児童生徒の苦手とする分野に焦点を当てた取組を体育の授業等で計画的に行うことができた。	B
		課題	コロナ禍以前の全国体力テストの平均体力合計点を目標に、子供たちの体力を上げていく。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	全国体力テスト平均体力合計点					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
①	【小学校】 男子 55.01 女子 56.16	新型コロナウイルス感 染拡大防止 のため未実 施	【小学校】 男子 52.03 女子 53.77	【小学校】 男子 52.41 女子 54.09	【小学校】 男子 52.72 女子 53.40	【小学校】 男子 55.05 女子 56.38	×
	【中学校】 男子 41.93 女子 48.62		【中学校】 男子 41.85 女子 48.34	【中学校】 男子 41.25 女子 45.79	【中学校】 男子 42.45 女子 45.76	【中学校】 男子 42.53 女子 49.41	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、運動やスポーツをする時間が小学生と中学生ともに減少した。運動する子としない子の2極化が課題である。運動への興味付けを行っていく必要がある。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	パワーアップチャレンジ手帳等を活用し、全児童生徒がこれまでの測定記録等と比較しながら取り組むことができる環境整備を行う。
②	全国体カテストの結果を受けて、苦手な部分を向上できるように取組を行う。

施策 4-2	健康教育の充実
--------	---------

取組 4-2-①	健康教育の充実	担当課 保健給食管理課
----------	---------	-------------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	適切な健康管理と保健指導の充実及び組織的・計画的な健康教育を実施する。		自己評価
	評価	成果	定期健康診断を実施し、適切な事前指導や事後措置により、児童生徒の健康管理と指導の充実を図ることができた。	B
		課題	長期欠席児童生徒の検診機会の確保が課題である。また児童生徒の健康課題の多様化により、健康教育の内容が増加している。感染対策を講じた上で、外部講師による指導や体験型の健康教育の実施をすすめる。	
②	取組内容	「歯と口の健康づくり」を推進する。		自己評価
	評価	成果	よい歯と口の学校及び児童表彰の事業を4年ぶりに実施したことをはじめ、ポスター等作品募集（市歯科医師会共催）により啓発ができた。歯垢染色剤を希望校に配布し保健指導等での活用に資することができた。	B
		課題	う歯有病率は減少傾向にあるが、う歯を多数有する児童生徒や歯肉に炎症所見を有する児童生徒の割合の増加を抑える必要がある。	
③	取組内容	学校におけるがんに関する教育を推進する		自己評価
	評価	成果	禁煙教育ボランティアの会の協力を得て、がんに関する知識の普及に取り組んだ結果、外部講師を活用したがん教育の実施率は前年度と比較して増加した。	B
		課題	実施率は増加傾向にあるものの、コロナ禍以前の実施率には至っていない。禁煙教育ボランティアの会による指導や学校医等による指導の実施をすすめる。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	むし歯のない12歳児の割合					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
	72.7%	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施	76.1%	73.7%	77.5%	80.0%	△

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	4年ぶりに「歯と口の健康週間に係る表彰式」を実施したことにより、前年度以上に「歯と口の健康づくり」への意識を啓発できたと考えられる。しかし依然として感染症による学級閉鎖が多く、外部講師を招いての指導ができないことがあったので、感染症対策を行いつつ実施していくことが課題といえる。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	適切な健康管理と保健指導の充実及び組織的・計画的な健康教育を実施する。
②	「歯と口の健康づくり」を推進する。
③	学校におけるがんに関する教育を推進する。

施策 4-3	食育の推進
--------	-------

取組 4-3-①	食育の推進	担当課 保健給食管理課
----------	-------	-------------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価					
①	取組内容	学校給食や様々な体験活動を通じて、計画的に子供の食に関する理解を促進する。		自己評価	
	評価	成果	各学校が食に関する指導の全体計画を作成し、各教科や総合的な学習の時間等において、食育を推進した。		B
		課題	各学校において、組織的・計画的な食育の実施		
②	取組内容	学校給食を生きた教材とし、和歌山の食材を使用した食育を進め、給食指導を推進し、学校給食の一層の充実を図る。		自己評価	
	評価	成果	小学校給食において月1回「地産地消の日」を設定する等、可能な限り地元産の食材を取り入れた地場産物の活用を進めた。		B
		課題	目標値に近づけるよう、より一層の地場産物の活用		
③	取組内容	給食費の無償化や物価高騰に伴う増額分を補填し、給食献立内容を充実させる。		自己評価	
	評価	成果	小学校給食において月1回「地産地消の日」の地場産物の食材提供や行事食などの実施を行い、学校給食の一層の充実を図った。		C
		課題	目標値に近づけるよう、より一層の地場産物の活用		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	小学校給食における和歌山市内産の農産物品目ベースの提供率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	21.1%	17.4%	17.2%	17.6%	16.2%	30.0%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	給食食材の物価高騰に伴い、地場産物の食材を柔軟に選択することができず、2022年度よりも提供率は減少し、目標値は達成していないため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	学校給食や様々な体験活動を通じて、計画的に子供の食に関する理解を促進する。
②	学校給食を生きた教材とし、和歌山の食材を使用した食育を進め、給食指導を推進し、学校給食の一層の充実を図る。
③	小学校の給食費無償化に加え、給食食材等の物価高騰に対応するため、給食費支援金を交付し、給食献立内容の維持・向上を図る。

基本目標 5	人権を尊重する社会を築くための教育の推進
施策 5-1	人権・同和教育の充実

取組 5-1-① | 学校における人権・同和教育の充実 | 担当課 学校支援課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	全ての学校に配布している「本市の人権・同和教育について」という教材を活用した研修を推進するとともに、研修や学習状況の調査を行い、教育活動全体を通じた人権・同和教育の充実を図った。		自己評価
	評価	成果	統一した教材を活用することで、各校における人権・同和教育の取組等の差異を軽減することができ、教材は新採教員研修等にも活用することができた。また、調査から課題等を見つけることができた。	B
		課題	配布している教材の内容を実状に応じて改善し、更なる人権・同和教育の充実を図る必要がある。	
②	取組内容	各学校における人権・同和教育の取組の充実が図られるよう、「和歌山市ブロック人権教育研究会」において市内を19ブロックに分け、それぞれにおいて研究を行い、ブロックの状況に応じて研究授業や実践交流を行った。		自己評価
	評価	成果	市内19ブロックそれぞれにおいて、各校で人権教育に係る研究を行い、状況に応じてではあったが校種を越えた実践交流や取組の確認ができた。	B
		課題	これまで同様、ブロック内の学校間での連携を密にしながら、グループ討議等を行うなど、より効果的な研修を実施していく必要がある。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	「自分には、よいところがあると思う」と答える児童生徒の割合					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
①	【小学校】 8.6%	全国学力学習状況調査	【小学校】 7.8%	【小学校】 80.2%	【小学校】 86.1%	【小学校】 9.1%	△
	【中学校】 7.5% (2018)	未実施のためデータなし	【中学校】 7.4%	【中学校】 79.7%	【中学校】 80.5%	【中学校】 8.0%	

②	指標名	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答える児童生徒の割合					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	【小学校】 98%	全国学力学 習状況調査	【小学校】 98%	【小学校】 98%	【小学校】 97.3%	【小学校】 100%	
【中学校】 95% (2018)	未実施のた めデータな し	【中学校】 97%	【中学校】 97%	【中学校】 95.5%	【中学校】 100%		

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	「本市の人権・同和教育について」の内容を見直し、教育活動全体を通じた人権・同和教育の充実を図る。
②	「和歌山市ブロック人権教育研究会」（市内19ブロック）において、内容の充実を図り、講演会や研究授業等、学校間での実践交流を行う。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容		今話題となっているテーマを選ぶことにより、人権問題について関心を持って参加してもらえるような講座を開催する。	自己評価
	評価	成果	新型コロナウイルス感染症対策による参加人数の制限を解除したことにより、昨年より多くの市民が学習する機会を設けることができた。	B
		課題	参加者が、地域団体の関係者に偏っており、一般市民の参加が少ない。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	人権講座の参加者数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	764名	新型コロナウイルス感染拡大防止のため未実施	141名	628名	700名	900名	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	計画最終年度を迎えたが、新型コロナウイルス感染症対策による参加人数の制限を解除したにもかかわらず、基準値を下回る参加人数となったため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	人権問題に関心がない方にも参加してもらえるよう、テーマや講師の選定を楽しんで学んでもらえるよう工夫し、より魅力的な講座となるよう取り組んでいく。

<b>基本方針Ⅲ</b>	<b>安全・安心な教育環境の整備</b>
基本目標 6	安全・安心な教育環境の整備
施策 6-1	子供たちの安全の確保

取組 6-1-①	子供の安全確保の推進	担当課 学校支援課 少年センター
----------	------------	---------------------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	不審者情報等を迅速かつ正確に伝達できるように、更に関係機関との連携を深め、当該地域を少年センターの青色パトロールカーで巡回し、安全確保に努めた	自己評価
	成果	小中高等学校からの不審者情報を関係機関に連絡し、子供の安全確保に努めているため、「登下校時の児童生徒の安全安心につながっている。」と各校から連絡を受けている。 青色パトロールカー巡回の不審者変質者等への抑止活動のため、前年度より不審者変質者情報の件数は減少傾向にある。	B
	課題	巡回車両2台でパトロールを行っている。パトロール範囲は署別に回ると3方向になるため、巡回できる車がもう1台欲しいところである。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	安全パトロールの実施回数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	189回	207回	200回	210回	212回	200回	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	不審者情報の連絡があれば、即時対応で巡回、当該地域を定期的に同時間帯に巡回できた。 青色パトロール車2台で、3署内をまんべんなく安全パトロールを実施することができた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	不審者情報の連絡があれば、当該地域を青色パトロールで巡回する。また、近隣の学校や所轄警察署等に連絡し、緊急かつ重大な案件については、関係機関と協力しメール配信サービスを活用した注意喚起を行う。

施策 6-2	学校教育環境の整備
--------	-----------

取組 6-2-①	安全・安心な教育環境の確保	担当課 教育施設課
----------	---------------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	長寿命化改良（予防改修）事業		自己評価  B
	成果	学校施設の老朽化対策として、小学校5校及び中学校3校の校舎及び屋内運動場の予防改修（屋上防水・外壁改修等）を実施し、安全・安心な教育環境の確保を図ることができた。		
	課題	学校施設については老朽化が進んでおり、引き続き改修の必要な箇所について計画的に実施する必要があるものの、多額の事業費が必要となるため、交付金や起債の活用など財源の確保が課題となっている。		
②	取組内容	屋上防水改修事業		自己評価  B
	成果	小学校6校、中学校1校及び幼稚園1園の校舎屋上防水改修を実施し、授業に支障を来していた教室の雨漏り被害を解決し、学校施設環境の改善を図ることができた。		
	課題	学校施設については老朽化が進んでおり、引き続き改修の必要な箇所について計画的に実施する必要があるものの、多額の事業費が必要となるため、交付金や起債の活用など財源の確保が課題となっている。		
③	取組内容	ブロック塀改修事業		自己評価  B
	成果	小学校3校のブロック塀について、フェンスに改修し児童・地域住民等の安全に資することができた。		
	課題	児童生徒等に危険を及ぼす可能性のある道路境界のブロック塀については改修が完了しているが、今後は隣地境界のブロック塀について、隣接者との協議を進めていく必要がある。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	ブロック塀等の耐震化率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
	【小学校】 8.2%	【小学校】 66.7%	【小学校】 66.7%	【小学校】 67.5%	【小学校】 72.2%	【小学校】 100%	△
	【中学校】 7.1%	【中学校】 90.3%	【中学校】 90.3%	【中学校】 90.3%	【中学校】 90.3%	【中学校】 100%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	老朽化の進む学校施設の改修を実施し、学校施設環境の改善を図ることができたが、隣地境界のブロック塀については、隣接者との協議に時間を要したため、計画目標値には達しなかった。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	長寿命化改良（予防改修）事業（小学校3校・中学校3校・幼稚園2園）
②	屋上防水改修事業（小学校2校・幼稚園1園）
③	ブロック塀改修事業（小学校1校）

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	トイレ改修事業		自己評価
	評価	成果	小学校6校及び中学校4校のトイレの洋式化・バリアフリー化を実施し、学校教育環境及び衛生環境の改善を図ることができた。	B
課題		全ての小・中学校について1系統の改修工事は完了しているものの、今後も計画的に改修を進めていく必要があるが、多額の事業費が必要となるため、交付金や起債の活用など財源の確保が課題となっている		
②	取組内容	空調設置事業		自己評価
	評価	成果	小学校4校、中学校3校及び幼稚園1園の教室や中学校3校の屋内運動場の空調機器の整備を行い、児童生徒等の熱中症予防及び避難所としての機能強化を図ることができた。	B
課題		各学校施設に設置している機器の老朽化に伴う更新や屋内運動場への設置など、今後も計画的に改修を実施するにあたり、多額の事業費が必要となるため、交付金や起債の活用など財源の確保が課題となっている。		
③	取組内容	LED照明設置事業		自己評価
	評価	成果	小学校6校及び中学校3校の照明機器について、LED照明に交換することで省エネルギー化と学校教育環境の改善を図ることができた。	B
課題		今後も計画的に改修を実施するにあたり、多額の事業費が必要となるため、交付金や起債の活用など財源の確保が課題となっている。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	トイレの洋式化率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	【小学校】 30.7%	【小学校】 59.7%	【小学校】 65.4%	【小学校】 72.4%	【小学校】 77.3%	【小学校】 89.9%	
【中学校】 28.2%	【中学校】 61.5%	【中学校】 61.5%	【中学校】 61.5%	【中学校】 68.0%	【中学校】 91.0%		

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	老朽化の進む学校施設の改修を実施し、学校施設環境の改善を図ることができたが、他事業の工事進捗との兼ね合いから事業計画の見直しを行ったため、計画目標値には達しなかった。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	トイレ改修事業（小学校5校・中学校2校）
②	空調設置事業（教室等：小学校3校・幼稚園1園）（屋内運動場：中学校2校）
③	LED照明設置事業（小学校7校・中学校3校）

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	学校図書館を活用した多様な読書活動を推進する。子供たちの心を育て、生きる力を与えられる「読書センター」、子供たちの言語活動や探究的学びを支える「学習・情報センター」としての学校図書館の活性化を図る。		自己評価
	評価	成果	市民図書館と協力し、学校図書館担当教員や学校図書館ボランティアの研修会等を実施した。	A
		課題	研修会を継続することが必要である。	
②	取組内容	学校での学習活動をより発展させたり深めさせたりするために、学校図書館担当職員いわゆる学校司書の配置や蔵書検索システムの導入を進める。		自己評価
	評価	成果	学校司書7名を小学校20校、中学校10校に配置した。	A
		課題	学校図書館司書の増員と蔵書システムの導入が必要である。	
③	取組内容	学校図書館の蔵書数を増やし、学校図書館活用の充実を図る。		自己評価
	評価	成果	標準蔵書数は上回っているが、古い本が多いため、「学校図書館図書廃棄規準」に沿って本の入替えを進めた。	B
		課題	児童生徒にとって魅力のある書籍を配置する。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	学校司書配置校の割合					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	
	【小学校】	【小学校】	【小学校】	【小学校】	【小学校】	【小学校】	○
	6%	20%	30%	26%	39%	36%	
	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	【中学校】	○
	6%	24%	29%	29%	59%	35%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	A	計画通りに研修の実施や司書の配置、学校図書館の活用を行うことができている。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	学校図書館教育担当者や学校図書館ボランティアの研修会を継続して実施する。
②	読み聞かせなどの読書活動推進に関する支援、読書や学習に関する図書資料のレファレンス及び資料提供、学校図書館の環境整備に取り組む。

施策 6 - 3	学校の勤務環境の整備
----------	------------

取組 6 - 3 - ①	学校の勤務環境の整備	担当課 学校教育課 学校支援課 教育研究所
--------------	------------	-----------------------------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	出退勤時間を把握した上で、本来の教職員の業務である子供と向き合う時間を確保するため、適正な働き方ができる体制の整備を進める。		自己評価
	評価	成果	全ての和歌山市立の学校（園）に出退勤システムを導入しており、出退勤時間を正確に把握し、在校等時間を把握することで超過勤務を抑制し、教職員の健康管理に寄与している。	B
		課題	月25時間以上の時間外労働があると回答している教職員の割合が10.5%である。 出退勤システムの老朽化が進み、更新が必要である。	
②	取組内容	「チーム学校」として、教員の負担を軽減するためのスタッフとして、多くの専門スタッフを配置する。		自己評価
	評価	成果	スクールカウンセラーを69校に30人、スクールソーシャルワーカーを18中学校区に9人、教員業務支援員を54校に54人、生徒指導補助員を21校に21人、部活動指導員を14校に28人配置した。	B
		課題	各校のニーズに合わせた適切な人材を配置するための専門スタッフの人材確保が難しい。	
③	取組内容	校務支援システムの積極的な活用や教育情報ネットワークを活用した情報の共有など、学校における校務の効率化の推進を図る。		自己評価
	評価	成果	小学校は令和2年度に全学年に校務支援システムの導入が完了し、中学校は令和3年度に新しい校務支援システムに移行を完了した。	B
		課題	現在の校務支援システムの積極的な活用により、更なる効率化の推進を図る。	

成果指標・目標の状況						
①	指標名	自己目標を持ち、子供と向き合う時間の確保について「できている」「取組中」と答える割合				自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)
	できている 56%	できている 83%	できている 87%	できている 89%	できている 93%	できている 80%
	取組中 42%	取組中 17%	取組中 13%	取組中 11%	取組中 7%	取組中 20%
	できていない 2%	できていない 2%	できていない 0%	できていない 0%	できていない 0%	できていない 0%

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	各取組について引き続き課題はあるが確実に効果を上げ、学校の環境整備の改善が進み、教職員の意識改善が図られつつある。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	出退勤システムを活用し、時間外勤務の把握に努め、月25時間以上の時間外労働があると回答している教職員の割合を10%以下にする。
②	学校からの要望と実態に即した専門スタッフを配置できるように、市費職員については予算要求を、県費職員については和歌山県教委育委員会に働きかけていく。
③	校務支援システムの活用と操作方法の周知を徹底し、更なる校務の効率化を図る。

施策 6 - 4	学校適正規模化の推進
----------	------------

取組 6 - 4 - ①	学校適正規模化の推進	担当課 教育政策課
--------------	------------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	各学校の児童生徒数を把握し、適正規模に満たない学校又は適正規模を超える学校に対する今後の対応を検討する。	
	評価	成果	適正規模外となる小規模校について、児童生徒数を把握した。
課題		児童数が減少している「1学年1学級以下」の小規模校への具体的な適正規模化策について検討する必要がある。	B
②	取組内容	小規模特認校制度の導入校についてフォローアップを行う。	
	評価	成果	令和5年度に新たに小規模特認校制度を利用した児童・生徒数は加太小学校にあっては7人、加太中学校にあっては募集枠上限の3人であり、全児童・生徒に占める小規模特認校制度の利用者の人数は、小学校は51人中7人、中学校は49人中18人となっており、小規模校としての学校規模を維持できる児童・生徒数を確保しながら、小規模校の特色を生かした教育活動の充実を図った。
課題		学校の状況を把握し、次年度の募集内容や制度の認知度の向上のための新たな学校の取組についても検討し、進めていく必要がある。また、引き続きほかの小規模校についても、小規模であることを生かした学校の在り方について研究、検討を続ける必要がある。	B

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	小規模校について、継続的な児童数・学級数の調査を行っている。また、小規模特認校制度を導入した加太小学校・中学校においては一定の児童生徒数の確保ができた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	市立学校の児童生徒数及び学級数の推移を調査、分析し、適正規模外にある学校の今後の対応を検討する。
②	小規模特認校制度を導入した学校のフォローアップを継続すると共に、学校、保護者、地域の意見を尊重しながら、ほかの小規模校へ制度の導入の必要性について検討を進める。

<b>基本方針Ⅳ</b>	<b>家庭や地域における教育力の向上</b>
基本目標 7	家庭や地域における教育力の向上
施策 7-1	家庭における教育力の充実

取組 7-1-①

家庭教育支援の充実

担当課 生涯学習課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	家庭教育支援サポーター養成講座を実施する。		自己評価
	評価	成果	家庭教育支援サポーター養成講座を実施し、12人の方が家庭教育支援サポーター登録を行った。	B
		課題	家庭教育支援のネットワークを広げるため、幅広い人材が確保されるよう努める。	
②	取組内容	家庭教育支援サポーターの活動の場を提供する。		自己評価
	評価	成果	市内2校の就学時健診時、コミュニティセンターでの親子クッキングや親子防災クッキングなど計4回、家庭教育支援サポーターの活動の場を提供した。	B
		課題	家庭教育支援サポーターの活動の場を広げるため、地域社会との連携を高めるよう努める。	

成果指標・目標の状況						
①	指標名	家庭教育支援サポーターの登録者数【人数】				自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)
	0人	25人	34人	41人	46人	25人

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	家庭教育支援サポーターの登録者数が目標値を達成しており、また家庭教育支援サポーターの活動の場を提供することもできているため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	家庭教育支援サポーター養成講座を実施する。
②	家庭教育支援サポーターの活動の場を提供する。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	P T A 連合会との共催で講演会やシンポジウムによる家庭教育、人権教育等における研修会を実施する。（幼稚園各園、小学校1回、中学校1回）		自己評価
	評価	成果	研修会実施により、分科会等で交換した意見等を各校に持ち帰り、各校の中で共有することで、教育に関する意識の向上につながった。	B
		課題	研修会への参加者をいかに増やすか。テーマも含めて検討を要する。	
②	取組内容	スポーツ大会や合唱祭、保護者・学校・地域が一体となった活動等の支援を行う。		自己評価
	評価	成果	スポーツ大会は有志で実施、合唱祭は代替として、文化交流事業（演劇鑑賞）を実施した。	B
		課題	今までは、恒例事業であったものが、今年度は連合会の中で意見交換し、アンケートをとり、中止とするのではなく代替事業を計画し実施した。連合会役員は毎年変わるの、実施についてはその都度検討をする必要がある。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	P T A 研修会や交流活動等の参加率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	48.9%	12.6%	17.1%	19.2%	24.5%	55.0%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	新型コロナウイルス感染症が5類となり、研修会等の開催はほぼコロナ禍前に戻ったものの、参加者は少なく、参加率が低かったことによるもの。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	P T A 連合会との共催で講演会やシンポジウムによる家庭教育、人権教育等における研修会を実施する。（幼稚園は各園で、小学校1回、中学校1回）

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	利用希望者の増加に伴う若竹学級の増設を行う。また、若竹学級の運営を民間委託することにより、指導員不足の解消を図り、研修により質の向上を図る。		自己評価
	成果	利用希望者が増えている地域が偏っており、若竹学級においては学校の空き教室等を利用しているが対応しきれない学級があり、令和4年4月の97学級3,499人から令和5年4月の97学級3,509人へと利用者は微増となった。また、定期的に指導員に対し現場研修を行い、運営の質の向上に努めた結果、利用者の満足度を満たしている。		C
	課題	利用申請が増加する一方で、利用希望者が増えている地域が偏っており、空き教室等を利用して運営しているが、余剰教室にも限りがあり対応しきれない学級がある。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	若竹学級入級者数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	3,305人 (2018)	3,578人	3,549人	3,499人	3,509人	3,900人	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	若竹学級の入級者数においては、基準値からの比較において一定数の増加が見られるため民間委託による効果はあったと思われるが、当該年度の目標値3,900人に対して、3,509人という実績値となったため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	利用者希望数増加に伴い、若竹学級増設のために、学校側ときめ細かな連携を行い更なる余剰教室の活用を図るとともに、余剰教室には限りがあるため学校施設の相互利用や学校外の施設の活用等、若竹学級の柔軟な運営を考察する。また民間のノウハウを生かして、指導員不足の解消や研修による質の向上を継続的に行う。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価			
①	取組内容	運営委員等交流会、運営委員長会議を実施し、各センターでの取組について意見交換をする。また、視察を行い、各子どもセンターでの活動の様子をデータで残し、各会議で情報発信をする。	
	評価	成果	今年度、運営委員等交流会を実施し、全51校区参加とはいかなかったが、運営、プログラム計画等についてグループに分かれて意見交換をすることができた。
		課題	子どもセンター事業がスタートして20年以上が経過、学校間で、活動回数、活動の内容、参加人数に大きな差が生じてきている。実施方法について、年度当初に通知文、交流会等で伝達していく必要がある。
		自己評価  B	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	交流会を開催し、各校でプログラム、事業の実施計画、実施方法について意見交換をすることができた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	本年度も運営委員等交流会、運営委員長会議を実施し、各センターでの取組について、意見交換を図る。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	学校と地域が連携協力するために、和歌山市共育推進本部会議を開催する。		自己評価
	評価	成果	推進本部会議において、各地域のコーディネーター活動の現状を共有することにより、ほかの地域の参考とすることができている。	B
		課題	現在、共育を行っていない学校にどのように広めていくことができるか。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	1日あたりのボランティア参加人数（地域共育協議会設置地域による）					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	70人	69人	66人	68人	74人	73人	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	目標値を達成することができたため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	和歌山市共育コミュニティ推進協議会を実施し、各地域の情報交換を行う。

取組 7-2-③

青少年の健全育成

担当課 学校支援課  
少年センター

## 令和5年度（2023年度）の主な取組と評価

①	取組内容	インターネットの普及に伴う情報モラル教室の実施。子供を守るために、学校・家庭・地域と連携して、情報提供や研修会を行い、SNSの正しい利用方法についての啓発を行う	自己評価
	成果	学校で様々なSNSに関する児童生徒の指導事案が増えている中、児童・生徒への情報モラル教室は増加傾向である。保護者や地域等への教室や講演も、少しずつ増加傾向にあり、大人に対しての情報モラルの啓発活動に取り組むこともできた。	B
	課題	児童生徒は、小さい頃からタブレット等に触れる機会が増えている。低学年の頃から受講できるよう学校に働きかけが必要。児童生徒だけではなく、保護者や教員、地域の方々に啓発する必要がある。	

## 成果指標・目標の状況

①	指標名	インターネット普及に伴う情報モラル教室の啓発校数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	【小学校】28校	【小学校】26校	【小学校】20校	【小学校】22校	【小学校】26校	【小学校】35校	
	【中学校】15校	【中学校】8校	【中学校】15校	【中学校】15校	【中学校】17校	【中学校】17校	
【義務校】1校	【義務校】1校	【義務校】1校	【義務校】1校	【義務校】1校	【義務校】1校		

## 自己評価

評価	2023	評価理由
	C	小学校、中学校、義務教育学校より依頼をいただいた全ての学校に実施することができた。啓発件数は減少したものの、児童生徒だけではなく保護者向けの情報モラル教室も依頼が増え実施することができた（前年度比約1.8倍）。

## 令和6年度（2024年度）の主な取組

①	児童生徒が加害者にならないように、メディア・リテラシーの向上のための情報モラルに関する学習機会の提供と啓発に努めるため、情報モラル教室の開催を各学校に啓発する。また、保護者や地域の方々にもインターネット等から起こるトラブルを知ってもらい、子供を守るために情報提供をする。
---	---

<b>基本方針Ⅴ</b>	<b>郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進</b>
<b>基本目標 8</b>	<b>生涯学習の推進</b>
施策 8-1	生涯学習の啓発と機会の提供

取組 8-1-①

生涯学習の啓発・推進

担当課 生涯学習課

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	生涯学習支援サービスに関する調査及び研究として、市政世論調査を用いて市民の生涯学習活動の実施状況を把握する。		自己評価
	成果	今回の調査を基に、令和6年度以降の取組を検討していく。		B
評価	課題	身近な地域でも行うことができる生涯学習活動を広報していくことで、忙しい子育て世代や働く世代にも参加してもらえるように努める必要がある。		
②	取組内容	和歌山市生涯学習人材バンク登録者名簿を作成し、生涯学習に取り組むに当たって講師を探している個人や団体に講師を紹介するとともに、市民の方がこれまでに身に付けた知識や技術を講師として生かし活躍できる場を提供する。		自己評価
	成果	毎年、数名の講師登録があり、今年度は9名が新規に登録された。		B
評価	課題	市民に対し、生涯学習人材バンクの周知が必要である。また、生涯学習に関する知識・技術習得に向けた講習を実施する必要もある。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	生涯学習支援サービスに対する市民の満足度（市政世論調査より）					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	11.2%	10.4%	10.6%	10.5%	9.5%	15.0%	
②	指標名	生涯学習人材バンク登録者数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	146名	173名	177名	185名	194名	150名	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	新型コロナウイルス感染症による活動制限が緩和されたにもかかわらず、生涯学習支援サービスの満足度において、昨年度及び基準値を下回ったため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	幅広い年代の生涯学習活動を促進するため、市民のニーズを踏まえて講座等の時間設定や講座内容などを設定するよう努める。
②	和歌山市生涯学習人材バンク登録者名簿を作成し、生涯学習に取り組むに当たって講師を探している個人や団体に講師を紹介するとともに、市民の方がこれまでに身に付けた知識や技術を講師として生かし活躍できる場を提供する。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	地区公民館の運営をそれぞれの地区に委託し、それぞれの地区の実情に応じた特色ある取組を行い、活発に活動していく。		自己評価
	評価	成果	地域の方が参加できる講座などを開催し、地域の活性化に寄与した。	B
		課題	新型コロナウイルス感染症の影響で延期や縮小していた一部の公民館活動を再開し、地域活性化につながるよう取り組む必要がある。	
②	取組内容	はたちのつどい実行委員会及びはたちのつどい代表者による会議で内容を検討し、門出を祝う。		自己評価
	評価	成果	星林高校による「祝いの演奏」を実施しながら盛大に開催することができた。	B
		課題	令和5年度は2部制で開催したが、参加者から1部制で開催してほしいとの意見があり、開催方法の変更を検討する必要がある。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	地区公民館講座受講者数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	103,877人	48,155人	51,106人	61,664人	84,171人	110,000人	
②	指標名	成人式祝賀事業参加率					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	52.5%	46.8%	53.6%	49.5%	50.8%	60.0%	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	新型コロナウイルス感染拡大前と比べると一部実施できなかった事業があったが、一定の公民館活動を実施することができた。はたちのつどいでは、星林高校による「祝いの演奏」を実施し、20歳の門出を盛大に祝うことができた。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	新型コロナウイルス感染症の影響で延期や縮小していた一部の公民館活動を再開し、地域活性化につながるよう取り組む必要がある。
②	1部制での開催を希望する意見が多数あることから、開催方法の変更を検討する必要がある。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習活動の場として各種講座を開設し、市民の学習活動を支援する。</li> <li>文化活動及び地域活動の場として、自主団体に会場を貸し出す。</li> <li>読書活動推進課及び市民図書館と協力し、図書資料の貸出などを行う図書室を運営する。</li> </ul>		自己評価
	評価	成果	市民の生涯学習活動、文化活動及び地域活動を推進することにより、各人が自発的意思に基づいた学習に取り組む環境の整備に資することができた。その結果、各人の生活の向上や自己の充実に資することができた。	B
		課題	コロナ禍が一定程度落ち着いたこともあり、自主事業への参加者が緩やかに増加したが、一部の自主事業の参加者は依然として少ない状態であることから、結果として学習の場の提供機会の減少を招いている。	
②	取組内容	第8ブロックコミュニティセンター（仮称）の建設工事を進める。		自己評価
	評価	成果	第8ブロックコミュニティセンター（仮称）の設置に向け、地域の意見を聞き、関係機関と協議を重ねながら建設工事を進めた。	B
		課題	引き続き第8ブロックコミュニティセンターの建設工事を進め、開館に向けた準備を行う必要がある。	
③	取組内容	コミュニティセンター未設置地区である第6ブロック（宮北、宮、宮前）へのコミュニティセンター設置に向けて、地域の意見を聞き、関係機関と協議をする。		自己評価
	評価	成果	コミュニティセンター建設予定地の目途がつき、コミュニティセンター設置に向けて進めることができるようになった。	B
		課題	基本構想策定に向け、地域の意見を聞き、関係機関と協議を行っていく必要がある。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	コミュニティセンター利用者数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	×
	549,013 人	331,229 人	364,269 人	442,934 人	492,944 人	600,000 人	

②	指標名	コミュニティセンター設置数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	7館	7館	7館	7館	7館	8館	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	C	<p>一部の自主事業で参加者が少ないなどがあったが、図書室の運営や各種講座の開設など市民の生涯学習を支援することができた。</p> <p>第8ブロックコミュニティセンター整備について、建設工事を進めることができた。</p> <p>なお、コミュニティセンター未設置地区である第6ブロック（宮北、宮、宮前）へのコミュニティセンターの設置については、建設予定地の目途が付き、基本構想策定に向けて進めることができた。</p>

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	引き続き生涯学習活動及び地域活動の場として、コミュニティセンターを多くの市民に利用してもらえらるるようしていく。
②	第8ブロックコミュニティセンターの建設に向けて、新築工事及び開館準備を進めていく。
③	コミュニティセンター未設置地区である第6ブロック（宮北、宮、宮前）へのコミュニティセンターに向け、地域の意見を聞き、関係機関と協議を進めながら、基本構想を策定していく。

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価				
①	取組内容	2019年に市民図書館が南海和歌山市駅前に移転したことに伴い、市民のニーズを反映した蔵書構成と蔵書冊数の充実に努める。		自己評価
	評価	成果	市民図書館では、市民の多様なニーズに対応するため、ビジネス関連図書やヤングアダルト関連図書を充実させ、蔵書冊数も順調に増加させている。	A
		課題	継続して市民のニーズを把握し、蔵書構成に反映させ、蔵書冊数の充実に努める必要がある。	
②	取組内容	子育て世代のためのイベント、学生の学習スペース、研究者の調査や研究、市民の交流やくつろぎ、高齢者世代の趣味や生涯学習の情報提供など、多様な目的に活用でき、幅広い市民が利用しやすくなる図書館サービスの実現を目指す。		自己評価
	評価	成果	市民図書館では、学習席や閲覧席の充実、「こどもとしょかん」における様々な子供対象のイベントの開催等をはじめ、各年代に応じ利用しやすい環境を整えた。	A
		課題	市民図書館での滞在やイベント参加等だけでなく、さらに貸出資料数の増加につなげるような取組をする必要がある。	

成果指標・目標の状況							
①	指標名	蔵書数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	480,418冊	547,388冊	568,625冊	580,572冊	599,593冊	550,000冊	
②	指標名	行事参加人数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	○
	6,401人	11,309人	12,498人	12,616人	15,357人	7,000人	
③	指標名	市民1人当たりの貸出資料数（コミュニティセンター図書室を含む）					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	4.0冊	4.6冊	4.8冊	4.6冊	4.5冊	7.5冊	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	市民ニーズを把握し蔵書構成に反映させ、蔵書冊数を充実することができ、また様々な世代対象のイベントを開催することにより、幅広い市民が利用したくなる図書館サービスが実現できている。しかし、貸出資料数は基準値からは伸びているものの目標値には届いていない。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	市民図書館を生涯学習及びまちの賑わいの拠点として、あらゆる世代の方が豊かな人生を過ごすことができるよう、様々な情報・サービスを継続して提供する。
②	利用者の拡大に向けて、指定管理者と協力し各種イベントの実施方法等を工夫し、安心安全な環境づくりを継続する。

基本目標 1 1	スポーツの振興
施策 1 1 - 1	生涯スポーツの振興

取組 1 1 - 1 - ②	学校体育施設開放の推進	担当課 生涯学習課
----------------	-------------	-----------

令和5年度（2023年度）の主な取組と評価					
①	取組内容	夜間照明施設が設置された小中学校のグラウンドについて、照明設備の安全性確保や照明器具の整備を行う。		自己評価	
	評価	成果	利用者の満足度の向上により、利用回数が増加傾向にある。		B
		課題	施設自体が老朽化していることから、強風や雨天時には、施設（配線やブレーカー）の不具合が頻繁に生じるため、整備が必要である。		

成果指標・目標の状況							
①	指標名	学校体育施設（体育館）の利用団体数					自己評価
	基準値 (2017)	実績値 (2020)	実績値 (2021)	実績値 (2022)	実績値 (2023)	計画目標値 (2023)	△
	550団体	583団体	566団体	552団体	554団体	570団体	

自己評価		
評価	2023	評価理由
	B	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動を自粛した団体が戻って来ず、加えて、新規の団体に伸び悩んだため。

令和6年度（2024年度）の主な取組	
①	照明設備等の老朽化が著しく進行していることから、長寿命計画を立て、計画的な更新を行うなど、施設整備の充実を図る。

#### IV 今年度の和歌山市教育委員会事務評価委員会からの意見

令和5年度分教育委員会の事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価に当たり、客観性を確保するため、和歌山市教育委員会事務評価委員会を開催し意見を聴いた。

和歌山市教育委員会事務評価委員会によるヒアリングは、第2次和歌山市教育振興基本計画で定める基本施策26項目を推進するための具体的な取組51項目中で、市長が管理し、及び執行することとなった「芸術・文化の振興」、「文化財の保護・活用」及び「スポーツの振興」に係る7項目を除いた44項目のうち、主に8項目を中心に行われた。

なお、この8項目については、事務評価委員の意見を元に選ばれている。

##### (1) 和歌山市教育委員会事務評価委員会 委員

氏名	所属
島津 俊之	和歌山大学教育学部 副学部長
芝田 史仁	和歌山信愛女子短期大学 教授
大北 満菜美	和歌山市公立幼稚園PTA連合会 会長
中谷 章	和歌山市小学校PTA連合会 会長
吉橋 健一	和歌山市中学校PTA連合会 会長
川合 廣征	近畿大学附属和歌山高等学校・中学校 校長

##### (2) 意見聴取日等

令和6年9月3日（火） 和歌山市役所11階

##### (3) 主な意見

###### ①取組別の意見

###### 1-1-④ 読書活動の充実

- ・子供の読解力を向上させるためにも、読書に親しむことができる環境作りをすることは重要である。
- ・小学校入学以前に、幼稚園・保育所・こども園での読み聞かせの実施、読み聞かせを実施するための絵本の増設、家庭での読み聞かせの実施が必要である。
- ・各学校での取組の共有も図りながら充実するべきである。
- ・読書する機会を増やすことは、是非ともこれからも継続していくべきである。
- ・司書が入っているときは、図書館を使う子が使いやすい状態である。できるだけ多く入っていただけるように取組を進めていくことが望ましい。

###### 1-1-⑤ 幼児教育の充実

- ・社会を生き抜く子供たちの学力を育成するためには、先生方の資質向上が重要であり、そのためには研修を重ねてスキルアップを図る必要がある。

- ・子供が育つには、物的環境（クラス又は部屋の環境）、人的環境（先生との関わり）、自然環境、社会環境の4つを整える必要がある。
- ・研修参加が目的ではなく、それを生かした教育内容の充実、幼少連携・接続の推進が重要であるため、そのための体制強化、取組を進めていくべきである。
- ・幼稚園、保育所、認定こども園の交流、連携、意見交換などの繋がりが大切である。それぞれの教育の仕方や新たな活動などを伝え合い、良い所は各園で実践してみるべきである。
- ・合同研修の参加園数を上げるには、なぜ参加できないかを分析した上で、皆が参加するにはどうするかというところを整理するべきである。

### 2-2-① 大学等との連携強化と充実

- ・連携協定を締結している和歌山大学との連携は重要であるが、医療福祉系の大学も増えているため、それらの大学との連携も進め、活動を充実させるべきである。
- ・ボランティア活動の内容やそれがどのような学びになるのか、自分や周りの力になるのかを知ってもらうことが必要である。
- ・複数の大学が力を合わせて、地元和歌山市に戻って活動する学生、教育の分野に進みたいと思う学生を育てていくという姿勢で取り組むべきである。
- ・学校の授業のサポート役に大学生がボランティア活動をされる場合の責任の所在を明確にすることが重要である。

### 1-1-② 小中一貫教育の研究と推進

- ・小中一貫教育でどのような子供を育てるのかの目標を明確にして取り組む必要がある。そのためには、他府県の取組などを参考にし、より研究を進め実践していくことが重要である。
- ・今後、児童数減少に伴い、小中一貫校にすることは必要な措置であるが、子供たちのことを最優先に考え、保護者・先生・地域の方々の理解を得ながらゆるやかに移行することが望ましい。
- ・伏虎義務教育学校について、その成果はもちろん、問題点についても分析・検証し、今後の方針に生かす必要がある。
- ・地域の状況により、義務教育学校がよいのか、小中の連携強化がよいのかは異なると思われるが、加太地域の取組の成果も確認しながら、教育の充実を図るべきである。
- ・人間関係が変わらず苦しむ子供のケアが必要である。
- ・性教育のところでは、異年齢交流があるからこそ、今は情報過多の時代であるから、綿密にしていくことが望ましい。

### 1-1-③ 適正な教科書採択

- ・保護者がもっと気軽に教科書を閲覧できる場所があるのが望ましい。
- ・教科書に関心をもってもらえる案内や活動をし、もっと保護者の教科書の関心が高まるよう、たとえばリーフレットの配布を行うことを検討するべきである。
- ・教科書の見本に係る展示会、教科書の採択に関する事項の公表については、より多くの

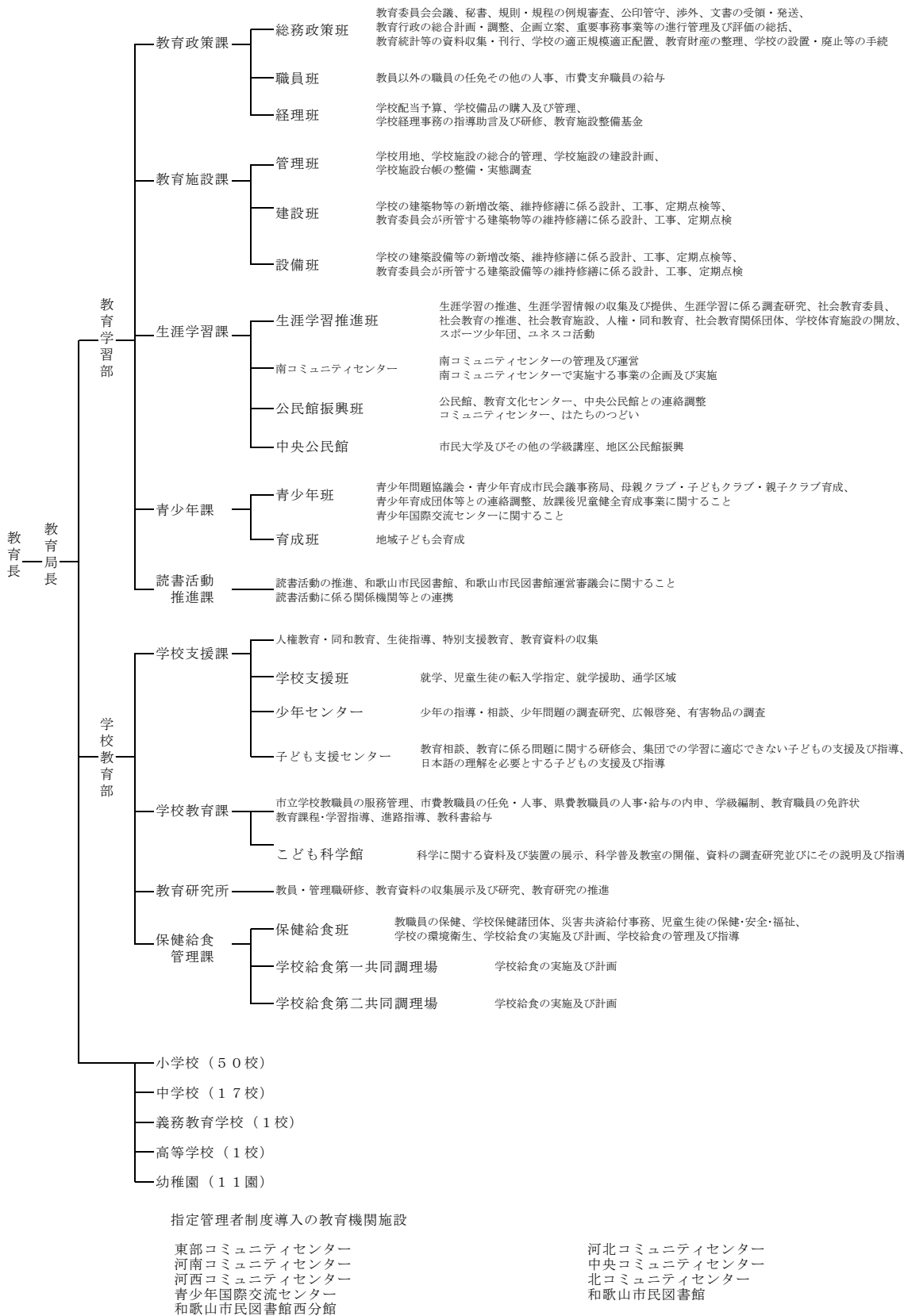
<p>市民が知り、参加できるよう周知方法を検討するべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ本が適正だったのかどうかを、児童生徒あるいは保護者にアンケートで聞くような評価システムがあることが望ましい。</li> </ul>
<p><b>7-2-② 地域との連携・協働体制の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化の問題・後継者不足の課題をクリアするのは大変だと思うが、新たな人材育成に取り組んでいくべきである。</li> <li>・学校（先生）・家庭（家族）・地域（ボランティアの方など）が参加して楽しいと思え、また、負担と感じられないことが大切である。コーディネーターの方には十二分な賃金を支払うことと、学校や地域に寄り添った行事や事業を進めることが重要である。</li> <li>・後継者がいなくなり高齢化が進んでいくと、事業そのものが成り立たなくなると考えられるので、将来的には、同じような業務は1つに寄せていく方向性が望ましい。</li> </ul>
<p><b>8-1-② 公民館活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズに答えられる講座等が開講できるよう、今後も検討を進め実施していくべきである。</li> <li>・はたちのつどいについては、たとえば、選挙権が18歳になり社会での責任という意味では大人であるという点、県外に進学・就職をしている人の参加しやすい時期の開催など、抜本的な見直しを検討する必要がある。</li> <li>・はたちのつどいの参加率を上げるためには、「なぜ参加しない（できない）か」の把握が必須だと考えるので、内容の充実と併せて考えるべきである。</li> </ul>
<p><b>6-4-① 学校適正規模化の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の中心として小中学校の果たす役割は大きく、児童・生徒の数だけの議論にならないよう、慎重な検討をするべきである。</li> <li>・今後さらに少子化が加速していく状況では、いろいろな制度の導入、対応策を検討し、適正規模化に向け努力していくべきである。</li> <li>・今後のことを考えると、もっと特化した学校が必要である。</li> <li>・今後10年、20年先を見据えた方針の検討は必要なので、県内外の状況も把握しつつ、小中一貫教育の研究・推進の取組とも併せて検討を進めるべきである。</li> <li>・統廃合だけでなく、小規模校同士の連携を深めるような取組も検討するべきである。</li> <li>・ICTを活用した授業はGIGAスクールの関係で進んできているので、小規模校同士がリモートで交流する可能性は検討するべきである。</li> </ul>

## ②その他の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>・健やかな子供を育てるためにはすぐにメディア媒体の利用を減らし、実体験できる授業などを増やすことが急務である。</li> <li>・調査結果や開催回数、参加人数のみにとらわれず、「活動の結果どうなったのか」を整理し、今後の活動、取組に生かすことが必要である。</li> </ul>
---

## V その他

### 1 教育委員会の組織（令和6年4月1日現在）



## 2 関連法令等

### ① 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### ② 和歌山市教育委員会事務評価委員会条例

（設置）

第1条 教育委員会の附属機関として、和歌山市教育委員会事務評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（所掌事務）

第2条 委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により教育委員会が行う同項の点検及び評価について調査審議し、教育委員会に意見を述べるものとする。

（組織）

第3条 委員会は、委員6人以内で組織する。

2 委員は、教育に関する学識経験を有する者その他教育委員会が必要と認める者のうちから、教育委員会が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱した日からその日の属する年度の末日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

（委員長及び副委員長）

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により選任する。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第6条 委員会の会議（以下この条において単に「会議」という。）は、委員長が招集する。ただし、委員の全員が新たに委嘱された後最初に招集すべき会議は、教育委員会が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

3 委員会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

5 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して会議への出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提供を求めることができる。

（守秘義務）

第7条 委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育学習部において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

### ③ 和歌山市教育委員会事務の点検及び評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、和歌山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について行う点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の実施)

第2条 点検及び評価は、毎年、その前年度に教育委員会が実施した事務事業のうち、教育行政の推進上重要な重点施策について行うものとする。

2 点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する者の知見を活用して自己評価結果を検証し、事務事業の改善に努めるものとする。

(結果の活用)

第3条 点検及び評価の結果は、教育施策の企画立案及び事業実施等において活用するものとする。

(報告書の作成等)

第4条 点検及び評価の結果は、報告書を作成して議会へ提出するとともに公表するものとする。

(庶務)

第5条 点検及び評価の実施に関する庶務は、教育学習部教育政策課において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育長が別に定める。

### ④ 和歌山市教育委員会事務評価委員会の委員選任に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、和歌山市教育委員会事務評価委員会条例（平成25年条例第49号）第3条第2項について定めるものとする。

(委員)

第2条 第3条第2項に規定する教育に関する学識経験を有する者は、次に掲げる者とする。

- (1) 和歌山大学教授またはそれに準ずる者
- (2) 和歌山信愛女子短期大学教授またはそれに準ずる者

2 第3条第2項に規定する教育委員会が必要と認める者は、次に掲げる者とする。

- (1) 公立幼稚園PTA連合会を代表する者
- (2) 小学校PTA連合会を代表する者
- (3) 中学校PTA連合会を代表する者
- (4) 和歌山県私立中学高等学校協会の推薦する者



教育に関する事務の管理及び執行の状況の  
点検及び評価に関する報告書  
対象年度 令和5年度

令和6年10月

和歌山市教育委員会 教育学習部 教育政策課  
和歌山市七番丁23番地  
TEL 073-435-1135